令和3年度　堀兼中学校区　小中一貫教育推進事業

１　研究主題　「９年間の連続した学びの中で豊かな人間性と社会性を兼ね備えた児童生徒の育成」

・・・教科・領域等を中心として、小中９年間を見通し、
豊かな人間性と社会性を兼ね備えた児童生徒を育てる・・・

２　研究への取組方針

小中一貫教育の９年間を見通した系統的・継続的な指導の在り方を研究する。堀兼・新狭山地区としての目指す児童生徒像を決定し、小中学校で共有し、その具現化のための重点目標を明らかにして、９年間を見通したカリキュラムを編成していく。「学習内容をつなぐこと」「指導方法をつなぐこと」「児童生徒をつなぐこと」「教職員をつなぐこと」を柱として、具体的にどのような工夫ができるか研究を進める。

３　研究への取組・研究経過

（１）取組と研究経過

①堀兼中学校区の目指す児童生徒像：「ふるさとを愛し、自ら進んで行動でき、支えあう児童生徒」

＜目指す児童生徒像に込めた思い＞堀兼中学校区は農村部の堀兼地区と駅付近で都市部の新狭山地区からなっているが、保護者がそれぞれの小中学校の卒業生である家庭も多く、保護者や地域住民の学校に対する関心は高く、学校に対する「思い」や「願い」も強いものがある。

②重点目標の設定

・目指す児童生徒像と、３校職員のアンケート（平成２８年６月実施）をもとに、小中一貫教育の重点目標を次の３つとした。

●言語能力、自己表現能力の育成
●「進んであいさつや返事ができる」児童生徒の育成
●授業や行事に協力して取り組む態度の育成

そして、目標達成のために研究組織を教科部会（１０）、領域部会（８）に再編し、９年間の年間指導計画の作成と、小学校と中学校の指導をつなぐという観点で、教科・領域ごとにより具体的な努力項目を設定している。

③9 年間のカリキュラム（単元配列表・年間指導計画）作成

小中 9 年間のカリキュラム作成の手始めとして、各教科で 9 年間の学習内容を見渡せるもの、指導の系統を図ることができるものがまず必要と考え、9 年間の単元配列表・年間指導計画を作成している。

④指導をつなぐ努力事項の決定

教科部会、領域部会共通の取組として、「指導をつなぐ」観点でそれぞれの教科部会・領域部会で共通実践事項を検討作成し、進めている。

（２）小中連携教育（平成２０年度～）から一貫教育（平成２８年度～）へと受け継がれてきた事業内容

・小学校から中学校に進学する児童生徒の情報共有（小中連絡会：本年度は６月に実施）
・「全国学力テスト」や「埼玉県学力・学習状況調査」の結果の分析・活用（本年度は各校ごと）
・児童生徒の交流（合同行事・合同授業など）
・教職員の交流（合同研修：本年度はリモート研修会を実施）
・９年間を見通したカリキュラムの編成
・小・中学校教員のティームティーチング
・PTA 等交流・共同活動
・独自教材の開発
・個別の教育支援計画（本年度は各校ごと）
・小学校の教科担任制の推進と中学校からの支援

堀兼中リモート研修会の様子

４　成果と課題・今後の取組について

平成２８年度から小中一貫教育の取組として研修を重ねたことにより、小中３校職員の親睦を深めることができ、お互いに理解し合う雰囲気が醸成されてきた。また、定期的に顔を合わせることにより、３校の様子が今まで以上に分かり合えるようになってきた。そして、各校の悩みや課題、さらには３校共通の課題などを共有することができるようになった。

しかし、小中一貫教育の取組の実践を通して、様々な課題も明らかになってきた。特に令和２・３年度はコロナ感染症拡大に伴い計画や活動内容が大きく制限された。今後新型コロナ感染症の収束を見通して、教科部会と領域部会を定期的に開き、９年間のカリキュラム作成の手始めとして、小学校から中学校までの各教科の年間指導計画を新学習指導要領と本中学校区の実態を併せて見直すことが必要である。

また学力向上の手だての一つとしての家庭学習の強化という視点で連携を改めて図っていきたい。

今後は、３校の合同研修会をより効果的かつ効率的な開催方法を検討し、計画した共通実践内容の確実な実施につなげていきたいと考えている。